

農業試験場水稻試験圃の生育状況(令和5年)

農業試験場八重森圃場(標高334m)

調査時期	調査項目	あきたこまち				コシヒカリ				風さやか			
		前年 (R4)	平年	本年 (R5)	平年差	前年 (R4)	平年	本年 (R5)	平年差	前年 (R4)	平年	本年 (R5)	平年差
移植後 20日	主稈葉数 (枚)	6.1	6.3	6.4	0.1	5.9	6.4	6.2	-0.2	5.6	6.3	6.5	0.2
	草 丈 (cm)	24	27	28	105%	27	29	31	106%	24	28	28	100%
	茎 数 (本/m ²)	221	205	151	73%	224	224	115	52%	211	234	150	64%
移植後 30日	主稈葉数 (枚)	8.3	8.0	7.5	-0.5	8.2	8.2	7.5	-0.6	8.1	8.1	7.5	-0.6
	草 丈 (cm)	34	33	37	113%	37	36	38	105%	30	33	32	97%
	茎 数 (本/m ²)	549	418	425	102%	576	472	305	65%	551	499	408	82%
移植後 40日	主稈葉数 (枚)	9.9	9.5	9.3	-0.2	9.8	9.6	9.5	-0.1	9.6	9.5	9.5	0.0
	草 丈 (cm)	55	46	45	97%	57	50	45	90%	49	41	39	94%
	茎 数 (本/m ²)	659	612	640	105%	699	642	503	78%	759	715	657	92%
幼穂 形成期	期 日 (月 日)	7/6	7/7	7/7	0	7/13	7/13	7/13	0	7/18	7/17	7/17	0
出穂期	期 日 (月 日)	7/27	7/27	7/28	+1	8/6	8/5	8/6	+1	8/9	8/8	8/7	-1
成熟期	期 日 (月 日)	9/6	9/6	8/31	-7	9/16	9/15	9/12	-3	9/22	9/22	9/15	-7
	稈 長 (cm)	87	85	89	105%	96	94	93	99%	85	80	80	100%
	穂 長 (cm)	18.4	18.5	18.5	100%	18.6	18.8	18.8	100%	17.6	17.7	17.5	99%
	穂 数 (本/m ²)	530	478	537	112%	423	484	473	98%	421	465	449	97%
	玄 米 重 (kg/a)	62.1	67.3	62.1	92%	63.4	64.0	59.8	93%	68.0	72.3	69.9	97%
	千粒重 (g)	21.8	21.6	21.0	97%	22.0	21.4	21.1	99%	23.1	22.0	21.1	96%
	籾数 (/m ²)	35,211	37,307	40,558	109%	34,607	42,256	39,651	94%	25,433	43,738	38,349	88%
	登熟歩合 (%)	84.3	84.5	80.2	95%	77.0	77.3	75.4	98%	80.5	76.5	78.3	102%
	登熟籾数 (/m ²)	29,604	31,893	29,464	92%	25,901	33,014	29,916	91%	27,844	33,014	30,105	91%

移植期: 令和5年5月22日、苗質: 中苗、移植法: 1株3本手植え、栽植密度: 22.2株/m²(30cm×15cm)
平年差は平成28年～令和4年の収量の最大、最小年を除く7中5年の値、籾数、登熟歩合、登熟籾数は平成30年～令和4年の最大、最小を除く5中3年の比較値。

玄米重は1.85mm篩データを使用。

＜概要＞

移植後20日の生育 主稈葉数は3品種ともにほぼ平年並。草丈はあきたこまちとコシヒカリは平年より長く、風さやかは平年並である。茎数は3品種ともに平年より少ない。これは活着が全般に遅れ、特にコシヒカリの遅れが大きく、茎数増加に影響したと思われる。

移植後30日の生育 主稈葉数は3品種ともに平年よりやや少ない。草丈はあきたこまちが平年より長い、コシヒカリ、風さやかはほぼ平年並み。茎数はあきたこまちが平年並であるが、コシヒカリ、風さやかは平年よりかなり少ない。

移植後40日の生育 主稈葉数はほぼ平年並み。草丈はあきたこまちは平年並み、コシヒカリ、風さやかは平年より短い。茎数は平年に比べ、あきたこまちは多く、コシヒカリは少なく、風さやかはやや少ないが平年並みに近づきつつある。

幼穂形成期 3品種ともに平年と同日であった。

出穂期 あきたこまち、コシヒカリは平年より1日遅く、風さやかは1日早かった。

成熟期調査、平年対比: 成熟期はあきたこまち、風さやかは平年より7日早く、コシヒカリは3日早かった。あきたこまちは稈長長く、穂長は平年並み、穂数は多い。コシヒカリ及び風さやかは稈長、穂長、穂数が平年並み。

玄米重、千粒重、粳数、登熟歩合、登熟粳数 平年に比べ、玄米重はあきたこまちは92%、コシヒカリは93%、風さやかは97%であった。千粒重は、あきたこまちは97%、風さやかが96%とやや軽かったが、コシヒカリは平年並みであった。粳数はあきたこまちは109%と多かったが、コシヒカリは94%、風さやかは88%と少なかった。登熟歩合は、あきたこまちは95%と低く、コシヒカリ98%、風さやかは102%と平年並であった。登熟粳数はあきたこまちは92%で、コシヒカリと風さやかは91%であった。

減収の要因 あきたこまちは登熟歩合が低く、コシヒカリと風さやかは粳数が少ないため、登熟粳数が少ないことが減収の要因と考えられた。

品質分析結果

調査時期	調査項目 (%)	あきたこまち			コシヒカリ			風さやか		
		平年	本年 (R5)	平年差	平年	本年 (R5)	平年差	平年	本年 (R5)	平年差
収穫後	整粒	88.2	91.8	104%	95.3	89.6	94%	95.3	92.9	97%
	胴割粒	9.1	5.5	60%	2.3	5.5	239%	1.9	3.9	205%
	白未熟粒	1.2	2.6	217%	1.2	3.6	300%	1.9	1.4	74%
	タンパク質含有率	6.5	6.8	105%	6.5	6.7	103%	6.5	6.4	98%

分析はケット社製RN-700で行った。整粒は健全粒＋青未熟粒（透明）の合計値。

タンパク質含有率は水分換算値。

平年値は令和3年及び4年の平均。

<概要>

平年に比べ、あきたこま치의整粒は91.9%と高く、胴割粒は5.5%と低く、白未熟粒は2.6%と高かった。コシヒカリの整粒は89.6%と低く、胴割粒は5.5%、白未熟粒は3.6%と高かった。風さやかの整粒は92.9%と低く、胴割粒は3.9%と高く、白未熟粒は1.4%と低かった。タンパク質含有率は、あきたこま치가6.8%、コシヒカリは6.7%で平年より高く、風さやかは6.4%と高かった。